

平成11年9月5日
市制110周年
特集号

市報

にいがた



市章



港のしるしと中央の五をもつて、安政5年通商条約により指定された五港を意味し、これに雪環を頂かせて五港のひとつ新潟をあらわす

発行日 毎週日曜日 発行 新潟市 〒951 8550 編集 総務部広報課 印刷 第一印刷所 学校町通1 602 1



水と緑 の空間

新潟市は、信濃川・阿賀野川の大川とともに発展してきました。まちの姿は大きく変わりましたが、その悠久の流れは今も昔も変わりません。その信濃川左岸のやすらぎ堤と白山公園、“リューとびあ”が一体となって大きな緑地空間を形作り、市民の憩いの場として親しまれています。

市制110周年に寄せて

私たちのまち「新潟」は、明治22年4月1日の市制施行以来、2町12村との合併を経て発展し、今年で110周年を迎えました。この間、大火、地震など幾多の困難を、先人たちの英知と努力で乗り越え、今日の繁栄を築いてきました。

平成8年からは中核市として施策を進めるとともに、都市圏の中心都市の役割を担ってきました。近年では、空港・港湾や高速交通体系の整備により、産業の振興はもとより対岸諸国をはじめとする諸外国との交流が促進され、また、文化・福祉・スポーツ施設の充実を図るなど、環日本海の中核拠点都市としての風格も備えつつあります。

さらに、2002年には、日韓共催ワールドカップサッカー大会の開催会場のひとつとなっており、この大会を新潟市の魅力を世界に向け発信する機会とするともに、世界中から来港する人々との交流も深めたいと思います。

今、私たちを取り巻く社会環境は、少子・高齢化の進行や地球環境問題の顕在化など大きく変化しており、人々の価値観も多様化してきています。このような社会情勢の中、さまざまな課題に取り組み、「市民一人ひとりが光り輝き、人間として尊重される市民主体都市の創造」を基本理念として、市民生活の向上を願い、今後も、福祉・環境・文化・防災などを重点に施策を推進していきます。

この節目の年に当たり、21世紀に向けて「市政は市民とともにある」との信念のもと、潤いのある豊かな魅力と活力のあるまちづくりを積極的に進めていきたいと思えます。



新潟市長

長谷川義明